

六尺以上

より五六年前、筑後柳川より丑又といへる長人江戸に來れり、身丈七尺餘といへり、鯨太左衛門はそれに比ぶれば最長せり、近古谷風樞右衛門といふ最手、身丈六尺五寸といへり、九紋龍七尺といへり、釋迦が嶽七尺餘といへり、上古長髓彦、宿儺、豐城入彦命、安部貞任、足利忠綱の類、長人少からず、琅邪代醉編廿七卷に、漢土の長人長狄兄弟、巨無霸、曹交等の事をいへり、他日暇を得て長大の人の事考證すべし、

〔續日本後紀<sup>仁十八</sup>〕承和十五年元嘉祥正月乙丑、是日仰七道諸國貢身長六尺已上者、

〔續日本後紀<sup>仁五</sup>〕承和三年四月丙戌、散位從四位下甘南備真人高直卒、中延曆十三年卒、高直身長六尺二寸、少爲文章生、能屬文、巧琴書、

〔續日本後紀<sup>仁七</sup>〕承和五年三月乙丑、散位從四位下池田朝臣春野卒、中春野宿禰能說故事、或可採容、中衣冠古樣、身長六尺餘、稠人之中、揭據原一作揚焉而立、會集衆人、莫不駐眼、

〔續日本後紀<sup>仁十五</sup>〕承和十二年正月辛亥、從四位上藤原朝臣濱主卒、中濱主身長六尺、容儀可觀、

〔文德實錄〕嘉祥三年五月壬午、葬太皇太后于深谷山、中太皇太后性橘氏、諱嘉智子、父清友、少而

沈厚、涉獵書記、身長六尺二寸、眉目如畫、舉止甚都、寶龜八年、高麗國遣使修聘、清友年在弱冠、以良家子、姿儀魁偉、接對遣客、高麗大使獻可、大夫史都蒙見之、而器之、問通事舍人山於野上云、彼一少年爲何人乎、野上對、是京洛一白面耳、都蒙明於相法、語野上云、此人毛骨非常、子孫大貴、

〔文德實錄<sup>四</sup>〕仁壽二年二月壬戌、越前守正五位下藤原朝臣高房卒、中身長六尺、膂力過人、甚有意氣、不拘細忌、十二月癸未、參議左大辨從三位小野朝臣篁薨、中薨時年五十一、篁身長六尺二寸、

家素清貧、事母至孝、

〔三代實錄<sup>二</sup>〕貞觀元年四月廿三日戊申、大納言正三位兼行民部卿陸奥出羽案察使安倍朝臣安仁薨、中安仁身長六尺三寸、姿貌瓌偉、性沈深有威重、